

ネパール人初のプロ野球選手が誕生する。ナショナルチームの主将を務めるイッソー・タパさん(22)。野球を通じた日本とネパールの国際交流を図っている民間ボランティア団体の支援で来日を実現し、来春から関西独立

リーグに参戦する「大阪ホークスドリーム」と27日にも仮契約を結ぶ。カバディやクリケットが国技の同国で、「野球から始まる笑顔」をテーマに継続してきた活動が大きな足がかりをつかんだ。

# 夢 右腕に懸けて

## ネパール人初のプロ野球選手誕生



ネパール人初のプロ野球選手となるイッソー・タパ選手(中央)と、小林代表(左)ら=ラリグラスの会提供

### タパ投手「大阪ホークスドリーム」へ

#### 関西独立リーグ

団体は、ネパールの国花・シヤクナゲを冠した「ラリグラスの会」。プール学院大(堺市)が主催している海外研修プログラム

ラムに参加した学生有志が、持参のグローブでキャッチボールをはじめたところ、見たこともない「遊び」に人だかりができ

た。その出来事が発足のヒントとなり、現在までに現地での競

技普及や指導者育成、用具提供による練習環境の整備など11年の支援活動を続けている。

13歳で競技に出合ったというタパ投手が初来日したのは昨年。めきめき実力を上げて50歳走は6秒2、遠投も90mを超え

るほどに成長したが、四国・九州アイランドや北信越BCなど国内独立リーグで五つのトライアウトを受験したところすべて

不合格に終わり、「ネパールでは僕より速い球を投げる人はいないのに」と悔し涙を流した。

その悔しさをばねに、未舗装の山道で朝夕計約3時間のロードワークや筋力トレーニングを積み、120kmほどだった球速は

今回、140km台前半にまで伸びてきた。

「まじめで優しい」というのは、同会代表を務める小林洋平さん(29)の評だ。仲間も夢を断念して出稼ぎに出ていたり決

して裕福な環境ではないが、プロになりたい一心で野球と日本語を必死で勉強してきた。11月からは同球団に練習生として参

### 堺のボランティア団体が支援

加。並行して各リーグのトライアウトを受ける中、選手契約が決まるとガッツポーズで喜んだ。

12月上旬まで日本に滞在し、いったん帰国。来年1月には初の国際大会となる南アジア選手権がパキスタンで開かれ、来春の開幕に向けた手応えをつかみたいところだ。「先駆者としての役割に期待したいし、ネパールの野球を引っ張ってほしい」と小林さんが話せば、「有名なピッチャーになりたい」と目を輝かせる右腕。ヒマラヤを望む草原のグラウンドで、子どもたちの夢が無限に広がっている。

現在、同会ではタパ選手の活動を支援するための寄付を募っている。問い合わせは電話072(292)7201「ラリグ

ラスの会」事務局(プール学院大「ミツパ会」事務所内)へ。

振込先は三菱東京UFJ銀行船場支店・普通口座398457

8「ネパール野球交流活動基金」、または郵便振り込みで0940161316430

「ネパールで野球『ラリグラスの会』」へ。